

## 「自分の都合」

笠松町 盛泉寺 小松宏栄

昨年、父親を亡くしました。祖父が早世した為に若くして住職になり50年間勤め上げました。本当に大変だったろうと思います。

仏教では親に二度会うと言われていて、  
一度目は生きて自分の目で見ています。  
二度目は亡くなったから出会う本当の親です。

『涅槃経』に

「慙愧あるがゆえに、すなわちよく父母・師長を恭敬す。  
慙愧あるがゆえに、父母・兄弟・姉妹あることを説く。」

と説かれてあります。

慙愧とは自分の生き方に責任を感じないという意味です。  
日頃、私たちは自分の都合でしか親・兄弟を見ていないという戒めの言葉であろうと思います。  
慙愧があつて初めて親の願い、兄弟の繋がりということに気づかされるものではないかと思ひます。

私も父を見て育ちましたから、自分なりに父親をわかっていたつもりでいましたが、亡くなってから日にちが経つにつれて本当の親の願いに気付かされたように思ひます。

しかし、私たちは隨縁起行（さるべき業縁）と言われてるように縁に左右される存在です。  
本当の親の願いに触れて自分の生き方を反省したにもかかわらず、都合が悪くなると平気でまた同じ事を繰り返してしまいます。

人間の問題の最も深い根源は、自己執着と一つになっている都合が本当に正しいのかを問うものが念仏の教えです。

親鸞聖人が和讃に「無慙無愧」と謳われた言葉に日常生活を通して  
私自身、頭が下がる思いがいたします。

仏教は自分の都合に合わせていろんな事を考えるのではなく、人間の都合は本当にただしいのかどうかを問うていく教えです。